



# JACET通信

社団法人大学英語教育学会

July 2010

The Japan Association of College English Teachers

No.174

## 目次

巻頭言（神保尚武）	1頁	本部だより	8頁
他学会からの寄稿（日本フランス語教育学会）	2頁	社員総会報告	10頁
特色ある大学英語教育プログラム（宮城大学）	3頁	支部だより	18頁
私の授業紹介（富田かおる）	5頁	事務局からのお願い	23頁
研究会紹介（自律学習研究会）	7頁		

## [巻頭言]

## JACET の新たな出発

社団法人大学英語教育学会会長 神保 尚武  
早稲田大学

2009年度第2回定例理事会（3月21日開催）で新執行部体制が承認されました。副会長を岡田伸夫理事と寺内一理事に委嘱し、他の理事の就任も承認を得ました。副会長はじめ、本年度の理事および幹事の方と力を合わせて学会活動の企画・運営に当たる所存です。学会が今後どうあるべきかにつきましては、これから役員や社員や会員のみなさまと共に考えていきたいと思っております。

当面の課題は以下の50周年関連事業等の遂行です。

### 1. 「英語教育学大系」(全13巻)の刊行

昨年度に2冊を刊行いたしました。今年度は7冊、来年度は4冊刊行予定です。この出版はJACETの総力を傾けているものです。理論と実践を融合することが大きな柱です。現実を見誤らず、

英知を持って着実に前進できる教育・研究体制の構築を目指したいと思います。

### 2. 第49回全国大会、第50回記念国際大会の開催

2010年9月7日－9日にTomorrow's Learners, Tomorrow's Teachers: Autonomous Development in College English Language Learning and Teaching「明日の学習者・明日の教師—大学英語教育における学習者と教師の自律的成長」をテーマに仙台の宮城大学大和キャンパスで開催いたします。

2011年8月31日－9月2日にChallenges for Tertiary English Education: JACET's Role in the Next Fifty Years「高等英語教育への新たな挑戦—JACETのこれからの50年」をテーマに福岡の西南学院大学で開催いたします。すでにFirst

Circularを作成しみなさまに配布いたしました。基調講演は小池生夫特別顧問、Rod ELLISオークランド大学教授、David MACAROオックスフォード大学教授にお願いしました。「英語教育学大系」のそれぞれの巻の編者をお願いし、海外からの関連研究者を招待講演者としてお招きし、講演に加え、シンポジウムも開催する予定です。

会員のみなさまには、積極的に両大会にご参加ください。

### 3. 『大学英語教育学会50年誌』の刊行

学会の50年を振り返り、今後の50年を展望したいと思います。2012年度刊行予定です。名誉会長の梶木隆一先生をはじめ、顧問の先生方、現役の役員の方々、中堅の先生方と新任教員の方々などから多様なご意見を頂戴したいと考えております。

### 4. セミナー

本年度のSummer Seminarの講師は、Dr. David NEWBY (Graz University, Austria) で、テーマはThe Theory and Practice of Communicative Language Teaching (CLT) : The Role of European Language Portfolio (ELP) です。CLTとELPに関して議論する良い機会になると思います。

来年度はNorthern Arizona UniversityのDr. William GRABE, Dr. Fredricka STOLLERを迎え、Advanced ESL and EFL Reading (tentative) というテーマで開催予定です。

2012年にはDr. Ema USHIODA (University of Warwick) を招聘し、motivationをテーマにする予定です。

春季セミナーの計画も鋭意進めております。

### 5. 創立50周年寄付事業

50周年関連事業を遂行する資金の一部として、会員をはじめ、関係者から寄付を募ります。会員のみなさまにはご負担をお願いいたしますが、記念すべき50周年ですので、ぜひご芳志をお寄せ下さい。今年度の事業です。

### 6. 今後の公益化への方針

法人に関する新法の制定に伴い、JACETを公益社団法人とするか一般社団法人とするかの選択を迫られています。6月の理事会で議論を始めました。全国大会時の総会でご報告いたします。社員総会で慎重審議をし、来年の3月には方針を決定したいと考えております。

この他にもいろいろな重要課題が山積していると思います。会員のみなさまにおかれましては、各支部の役員や本部役員に、ご意見やご要望等を寄せていただきたくお願いいたします。

～他学会からの寄稿～

## 「日本フランス語教育学会」 の紹介

副会長 大木 充 (京都大学)

### 1. 組織

沿革：

日本フランス語教育学会は、今年で設立からちょうど40周年を迎える。本学会は、1970年に「日本フランス語教授連合」Association Japonaise des Professeurs de Françaisとして設立された。1979年に「日本フランス語教育研究協会」と改称され、1989年に現在の名称「日本フランス語教育学会」Société Japonaise de Didactique du Français (SJDF) となった。現在の会員はおよそ700名で、その2割がフランス語を母語とする会員である。会員の大多数は大学でのフランス語教育にたずさわっている。

特徴：

フランス語関係の学会としては他に「日本フランス語フランス文学会」、「日本フランス語学」があるが、教育学会の特徴のひとつは「国際化」していることである。設立当初より、国際フランス語教授連合 Fédération Internationale des Professeurs de Français (FIPF) の加盟団体として活動している。国際フランス語教授連合が主催する世界大会が4年に一度開催される。また、その間にアジア地区大会がある。それぞれの次の開催地は2011年に南アフリカ共和国、今年の12月にオーストラリアのシドニーに決定している。年2回開催される日本フランス語教育学会主催の大会にも日本でフランス語教育にたずさわっているフランス語圏出身の会員も多数参加する。また、

この秋の大会は40周年の記念行事の国際大会で、世界各国からの招待者および発表者が参加することになっている。

もうひとつの特徴は、学会の活動とフランス語振興が結びついていることである。たとえば、フランス大使館と共催で毎年フランス語教育研修会「スタージュ」を行っている。また、フランス語圏在外公館などと連携して、「フランコフォニー・フェスティバル」を実施し、日本におけるフランス語教育の発展、フランス語普及に努めている。学会の組織および活動に関して、詳しくは学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/sjdf/>) を御覧ください。

## 2. 研究

### 概要：

本学会は学会誌 *Revue japonaise de didactique du français, Études didactiques, Études francophones* を年に2冊刊行している。一冊はフランス語の教授法に関するものであり、あとの一冊はフランス語圏研究に関するものである。例として昨年度に刊行された教授法の号の論文のタイトルをすべて列挙することにする。一篇をのぞいてすべてフランス語で書かれたものである。1. 「なぜフランス語をまだ外国語として学習するのか」、2. 「複言語、文化間能力：ヨーロッパの言語政策の2つの要素」、3. 「言語バイオグラフィー・アプローチと人文科学：複言語・文化間アイデンティティ養成の過程としての言語習得」、4. 「東アジアにおける『ヨーロッパ言語共通参照枠』のインパクト：『参照枠』のよりよい文脈化のために」、5. 「日本のフランス語学習者の動機づけ低下のおもな原因」、6. 「日本人のフランス語初級学習者のポーズ・パターン分析」、7. 「暗示的文法をめざして」、8. 「フランス語のシンタックス学習の順番：文単位と名詞句」、9. 「フランス語学習における文化的方略」、10. 「日仏教師による共同教育と学生による短編映画制作プロジェクトによる教授法」。

### 特徴：

上掲の1から4までは、英語教育にはあまりみられない研究テーマだと推測する。また、5はフランス語教育では深刻な問題である。これらの研究テーマは、世界におけるフランス語の言語とし

ての地位と日本の学習者にはフランス語が大学になって初めて学ぶ「初修外国語」であることと深く関係している。

英語教育で問題になっていることをフランス語で研究テーマとしてそのままとりあげることはできない。英語とフランス語のおかれている社会的環境の差はますます大きくなっている。また、大学での外国語教育を考えた場合、英語とフランス語とではその教育目的も到達目標も異なっている。大学設置基準の大綱化とグローバル化により、各大学で英語への一極集中、英語の最重要化が進むとともに、英語以外の外国語を軽視する風潮が拡がり、フランス語学習者数は各大学で減り続けている。最近是中国語学習者の増加がフランス語学習者減に追い打ちをかけている。このようなときにフランス語教育の研究者に求められているのは、「なぜ英語以外の外国語を学習する必要があるのか」、「なぜフランス語を学習する必要があるのか」、「外国語学習には実用目的でコミュニケーションの道具として学ぶ以外にどのような目的があるのか」などの外国語学習に関するより根源的な問いに答えることである。したがって、英語教育の関係者が『ヨーロッパ言語共通参照枠』の提唱している共通評価基準に関心があるのに対して、フランス語関係者はむしろ『参照枠』の提唱している複言語・複文化主義の意義に関心を持っているのである。

## 特色ある 大学英語教育プログラム

宮城大学

鶴岡公幸 ティモシー・フェラン

### 背景

宮城大学は平成10年に宮城県立の公立大学として実学教育の推進を理念として設立された。開学時は大和キャンパス（宮城県黒川郡大和町）に事業構想学部（事業計画学科・デザイン情報学科）と看護学部（看護学科）の2学部でスタートしたが、平成15年から太白キャンパス（宮城県仙台市太白区旗立）に食産業学部（ファームビジネス学科・

フードビジネス学科・環境システム学科) が加わり3学部6学科の体制となり現在に至っている。事業構想学部は、事業の企画に関する知識や技術を体系的に学び、新しい時代における各種事業を総合的にプロデュースできる人材育成を目指した日本初の学部。看護学部は、国家試験である看護師、保健師および養護教諭の養成を主な目的としている。食産業学部は食の生産・加工・流通・消費・リサイクルといった一連のフードシステムを学ぶ食農に関する文理融合の日本初の学部である。本学は、平成21年4月から公立大学法人宮城大学となり、同時にカリキュラム改正も実施され各学部独自に行われていた英語教育は全学部統一カリキュラムに変更された。そしてその実施・運用を担う学内組織として共通教育センターが設置され、各学部にも所属していた英語教員は同センター所属となり学部は兼務となった。この背景には、学生数が一学年440名と比較的小規模な大学であるにもかかわらず、各学部でユニークなカリキュラムが展開されている反面、学部間の交流や教育の品質管理という点においては統一性に欠けていることへの反省および本学の外部評価委員会より、外国人教員の不足と外国語教育、特にオーラルコミュニケーションの重視を指摘された経緯がある。このような状況下において、平成21年4月より、馬渡尚憲理事長(学長兼務)の指示の下、「オーラルコミュニケーションの養成」を主な目的とし、クラス人数を30名程度とする宮城大学新英語教育カリキュラムがスタートした。

## カリキュラムの概要

新カリキュラムの英語必修科目は、1年生前期が英語Ⅰ、後期が英語Ⅱ、2年生前期が英語Ⅲの3科目6単位で構成されている。全ての科目が日本人と英語の母語話者のクラスで編成され各担当教員が週1回計週2回のクラスである。各科目のテーマは、英語Ⅰはスピーキング、英語Ⅱはスピーチ、英語Ⅲはプレゼンテーションで、ステップを踏めるようになっている。また、学生の英語力の客観的基準の指標として、英語Ⅰと英語Ⅲの終了時(7月)にTOEIC受験を義務づけ成績評価の必要要件としている。特に英語Ⅲにおいて、英語Ⅰ終了時点でのTOEICスコアとの増減点を加算するValue Added TOEIC Grading Systemは成績評価の大きな特徴と言えよう。例えば、英語Ⅰ終了時に

受験したTOEICスコアが350点で、英語Ⅲ終了時に受験したTOEICスコアが400点であるとすれば、英語ⅢにおけるTOEICは、400点に増減点である50点を加算し450点として評価する。一方、もし英語Ⅲ終了時に320点であるなら、320点に30点を減じて290点の評価となる。従って、英語Ⅰでスコアが低くても過去の自分と比較してスコアがアップすれば加算され、一方で1年次のスコアが高くてスコアがダウンすれば減点される。成績評価基準で示すように英語Ⅰから英語ⅢまでにTOEICスコアが100点アップすることを期待している。この背景にはクラスで使用される内容をどの程度理解されたかのみならず、客観的な英語力測定と、学生の自己学習を促すという意図があった。成果については本稿の締め切りには間に合わないが、是非全国大会の実践報告で報告したい。



## 成績評価

成績評価では、英語Ⅰ～Ⅲについて以下の4項目が基準となっている。

- ①出席およびクラス参加：一人の教員のクラスを4回以上欠席した場合は不可。遅刻は2回で欠席1回とみなす。
  - ②クラス内での小テスト、課題などの評価50% (各教員の評価25%×2) と期末試験50%
  - ③クラス内で実施されるオーラルテスト2回
  - ④TOEICスコア
- 英語Ⅰ  
秀：①および③がPass、②が90%以上、④が500点以上  
優：①および③がPass、②が80%以上90%未満、④が400点以上500点未満  
良：①および③がPass、②が70%以上80%未満、

④が300点以上400点未満

可：①および③がPass、②が60%以上70%未満、  
④が300点未満

不可：

- ・①および③がPassしない。
- ・②が60%未満
- ・TOEICを未受験

英語Ⅱ

秀：①がPass、②と③が90%以上

優：①がPass、②と③が80%以上90%未満

良：①がPass、②と③が70%以上80%未満

可：①がPass、②と③が60%以上70%未満

不可：

- ・①がPassしない。
- ・②と③が60%未満

英語Ⅲ

秀：①および③がPass、②が90%以上、④が  
600点以上

優：①および③がPass、②が80%以上90%未満、  
④が500点以上600点未満\*

良：①および③がPass、②が70%以上80%未満、  
④が400点以上500点未満\*

可：①および③がPass、②が60%以上70%未満、  
④が400点未満\*

不可：

- ・①および③がPassしない。
- ・②が60%未満
- ・TOEICを未受験

\*英語Ⅰ終了時のTOEICスコアとの増減点を加算

## 今後の課題

本カリキュラムは現在進行中であり、まだ成果を測定し評価するには時期尚早であり、本年度の前期終了時における学生アンケート調査や、TOEICスコアの結果を分析する必要がある。果たして学生が進歩を実感できたかどうか興味深い。現状のカリキュラム上の課題としては、TOEICスコアに英語Ⅰと英語Ⅲの最終成績が左右される傾向が強いこと。またオーラルコミュニケーションを重視のあまり、大学の専門課程で求められるリーディング力やライティング力を養成する機会が乏しいことが挙げられる。これらの能力の養成は、英語Ⅲのプレゼンテーションの内容を組み立てる上でも必要である。本学では2年次後期に選択科目として英語Ⅳという科目があり、この科目



で専門課程への橋渡しの役割として位置づけてはいるが充分とは言えず、今後は専門科目の教員との連携も検討する必要があるだろう。また、オーラルコミュニケーションを養成するために必要な時間数、1クラスの学生数などには限界があり、実効性をあげるためには目標と制度の乖離が大きく、それを埋めることは通常の授業時間内では無理がある。本カリキュラム改革は、まだ道半ばであり、今後は、現場の当事者である英語教員のみならず、各学部から教育ニーズを意思決定プロセスに取り込み、宮城大学の実学教育を実現するため、夏以降に改めて検討すべきと認識している。

## 私の授業紹介

富田かおる（山形大学）

Guess the word.

英語の授業はお好きでしょうか。授業の好き嫌いを問うのは普通、受講生に対してかもしれませんが、授業を担当する教員に対しても大切な問いとなります。外国語を担当する教員が、自分はこの教科の担当で本当に良かったと思える瞬間はどのような時でしょうか。教科に拠らず常に言えることは、受講生が生き生きとした目で、真剣に学ぶ姿、また、時に、心から楽しそうに笑っている様子を見た時ではないでしょうか。しかし、クラスに拠って、また、同じクラスでもその時々で、理想と程遠い状況で授業を進めなければならない

こともあります。反応があまりなかったり、こちらからの問いかけにめんどくさそうに答えたり「にらんでいるのですか、あなた」と問いかけたくなることもあります。それでも英語の授業を担当していて本当に良かったと、授業が終わった後に担当教員である自分がニコニコしながら部屋を後に出来るのは、自身が外国語で話すことが大好きだからという理由も忘れることはできません。

外国語で話すことは、自分の母語で話すこととは違った喜びや楽しみがあります。なかなか話せる様にならず、実用レベルに達しないことで焦りが現れた時には、ともすると外国語能力の習得の遅さにもどかしく思ったり、時に苛立ちを覚えたり、そして諦めの気持ちに囚われることもあるでしょう。それでも努力し続けて少しでも話せるようになると楽しくて仕方ありません。おしゃべりな人や無口な人という言い方をよく耳にしますが、基本的に人は声に出して話すことが好きなのではないかと思います。また、プレッシャーの多い日常を過ごしている人には、何らかの感情や考えを言葉にし、それを声に出すことで、幾分ストレス解消になることもあります。そこで、私の授業での基本理念は、こんなに楽しい活動の一端を、是非受講生にも味わってもらいたいということです。

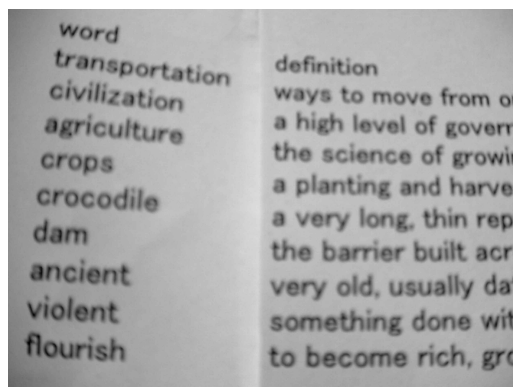
たとえ未知の楽しみを秘めた外国語であっても、その時の感情や考えとは直接関係のない、もしくは興味がもてない事柄について話すというのは苦痛に思える時があります。しかし、クラスのほとんどの人にとっての共通の興味や話題はなかなか見つけるのが難しいものです。また、英語専攻ではない受講生に言語そのものを話題とし、その知識に興味を持ってもらうのもなかなかできることではありません。そこで、外国語学習のための、一見単調に思える内容ではありますが、意外に受講生がきらきらとした目をして取り組んでくれる方法で、ここ数年、一般教養の英語リーディングやコミュニケーションで取り入れてきた授業方法の一部をご紹介します。「英語聴解に適した語彙定義音声データベースの構築」という題目の共同研究から学び、実際に授業で使ってみて、受講生も、また、自分自身も楽しめることが確認できた方法です。

*The New Yorker*, 2003年7月14日のPatent Bending という記事の引用です。“The American



newspaper business as we know it was born on September 3, 1833, when a twenty-three-year-old publisher named Benjamin Day put out the first edition of the *New York Sun*. Whereas other papers sold for five or six cents, the *Sun* cost just a penny. For revenue, Day relied on advertising rather than on subscriptions. Above all, he revolutionized the way papers were distributed. He sold them to newsboys in lots of a hundred to hawk in the street. Before long, Day was the most important publisher in New York.” この文を使って、声に出して読み、語句の意味を確認し、文法事項の説明を行い、最後に文の解釈を確認し、そこで終わらず、語の定義文について受講生に問いかけます。例えば、“What is a patent in English?” ここですらすらと答えが出れば問題がないのですが、実情は、教員からの質問は、“What is a patent in English?” 学生の返答は、“…” となります。そこで、普段から、英英辞典を参考にするように促し、また、英和辞典をも併用するように勧め、その日に習った語句を英語で説明できるように練習を行います。英語語句の意味を即興で説明できれば良いでしょうが、なかなか楽なことではなく、担当者自身もすらすらと言葉が出てくるとは限らず、英英辞典の定義文を抜き出したものを、受講生の前で堂々と広げて読み上げる始末です。受講生も質問された時に備えて英英辞典の定義文をノートに写したものを用意し、質問されると、徐に電子辞書を使って調べ—この間、こちらは少しむっとなしながら、それでも忍耐強く待つのですが—定義文を読み上げるというのが頻繁です。しかし、100%独自の文を考えるというのは簡単ではありませんので、英英辞典の定義も利用し、かつ、少し自分で考えた文も加えるという方法を

取っています。また、この方法に慣れて、少しでも英語で説明が出来るようになるために、毎回語句の定義文をリスニング小テストに利用しています。“What is the exclusive right given by a government to make, usually, and sell an invention for a limited number of years?”といきなり聞かれ、“a patent”と答えられる受講生はほとんどいませんが、その日に使った題材という共通の知識の基で行えば、真剣に聞き、あっ、あれだと思いついた時の嬉しそうな顔が担当者をとても幸せな気持ちにしてくれます。



## 研究会紹介（東北支部）

# 自律学習研究会

代表 小嶋英夫・弘前大学

1970年代以降ヨーロッパ諸国の言語教育改革を目指してきたCouncil of Europeが主要な関心を寄せる学習者オートノミーは、異文化によって解釈に差はあるものの、今や言語教育を含む教育全体のゴールとして広く認識されています。最近、その教育的意義を唱える日本人教育者が増えてきているように感じられますが、学習者が自己の学習に責任を持つこと、また学びの共同体における互恵的な相互依存を通して「生きる力」となる学習者オートノミーを育むことが期待されます。生涯学習の一環として言語学習を考えると、学習者オートノミーの重要性がより理解できそうです。

ところで、学習者オートノミーと教師のオート

ノミーの相互関係についてはどうでしょうか。学習者の自律的成長を願って日々授業改善を図る英語教師は、学習者とともに学びを分かち合い省察を繰り返す中で、自らのオートノミーの向上を自覚するでしょう。生涯学習者として自らも学び続ける教師は、自律学習の意義を理解しているからこそ学習者オートノミーの優れた促進者になれるのです。世界的に教師の専門性が問われ、教師教育の目的が知識やスキルのみならず教師オートノミーの育成にもあることが認識されるにつれて、2つのオートノミーの相互関係が注目されてきていると思われま。

上記のような教育的状況を踏まえて、自律学習(Autonomous Learning)研究会は、第49回JACET年次大会(宮城大学で開催)において、東北支部企画の特別シンポジウム(1)で研究成果を発表することになりました。共通会員がいることもあり、研究会同士の連携を深めている言語教師認知研究会が特別シンポジウム(2)を担ってくれます。この紙面をお借りして、多様な協働で本研究会が年次大会に向けて取り組んできている内容の一端を紹介させていただきます。

大会の全体テーマは、すでにご存じのように、「明日の学習者、明日の教師：大学英語教育における学習者と教師の自律的成長」です。このテーマに対する支部内の意識統一を図るために、昨年7月に開催された支部大会では、「英語教育における学習者と教師の成長」と題して、本研究会員による研究発表、言語教師認知研究会員との連携によるシンポジウムが行われました。全国大会での特別シンポジウムと大会シンポジウムは、これらをさらに発展させたものです。学習者と教師の自律的成長にスポットを当てた2つの特別シンポジウムが、大会7日・8日に実施されます。そして、最終日9日の大会シンポジウムでは、学習者と教師のオートノミーが統合されることとなります。海外からの基調講演者のお二人、Dr. Barbara Sinclair (Nottingham University) と Dr. Simon Borg (Leeds University) は、前者がオートノミー、後者が言語教師認知を専門分野としており、特別シンポジウムのコメンテーター、大会シンポジウムの話題提供者としても登場しますのでご期待ください。

さらに、2つの特別シンポジウムに関する情報をお知らせします。特別シンポジウム(1)は、

本研究会のメンバーが中心となり司会と話題提供を英語で行います。英語テーマは、Tomorrow's Learners: Autonomous Development in English Language Learningです。提供される話題は、(1) An Attempt to Foster Autonomous Learning: Evaluating Language Learning Materials in a Theme-Based Language Course at a Japanese University (2) Toward Autonomous Learning through Cooperative Learning: Classroom Management Applying Group Activities (3) Seeding Learner Autonomy through the Arts Approachとなっています。特別シンポジウム(2)も英語で実施され、テーマはTomorrow's Teachers: Autonomous Development in English Language Teachingです。提供される話題は、(1) Teacher Development in Communities of Practice (2) Appropriating Conceptual and Practical Tools: A Case Study of Secondary School Japanese Teachers of English (3) Toward Professional Autonomy: Collegiality among Japanese Secondary School EFL Teachersです。

学習者オートノミーと教師オートノミーの相互

関係に興味を持たれる会員の方々は、年次大会の大会シンポジウムにもぜひご参加ください。そこでの話題提供者4名の発表内容にご注目いただければ幸いです。目下のところ本研究会は、学習者と教師がともに学び合う中で、互恵的な相互依存によりそれぞれのオートノミーを育むことに大きな意義を感じながら、JACET SIGとしての研究を継続しております。

## 本部便り

代表幹事 尾関直子 (明治大学)

2010年度より、笹島茂氏の後任として、代表幹事に就任しJACETの運営の重責の一端を担うことになりました。なにぶん若輩にて、浅学非才の身ではございますが、JACETの発展のためにお役に立ちたいと考えております。今年度でJACETは、社団法人化して2年目を迎えましたが、今後、公益社団法人を選択するか、一般社団法人を選択するか決断しなくてはいけない時期であり、それについての話し合いも当然増えてくることが予想さ

広 告



れます。大きな岐路に立たされたJACETですが、この問題に関して皆様とご一緒に真剣に考えていく所存です。どうかよろしく願いいたします。

本部からは、2010年度役員についてと2010年度の主な行事予定（7月以降）についてお知らせします。

## ●2010年度役員

**【理事】** 神保尚武（会長）、岡田伸夫（副会長）、寺内一（副会長、総務）、高橋恒一、山口光（外部理事）、高井收（北海道支部長）、小嶋英夫（東北支部長、JACET賞選考）、中野美知子（関東支部長）、小宮富子（中部支部長）、野口ジュディー津多江（関西支部長）、松岡博信（中国・四国支部長）、山内ひさ子（九州・沖縄支部長、国際交流）、石田雅近（関東）、木村松雄（紀要）、芝垣茂（研究会）、見上晃（財務、ネットワーク）、山岸信義（全国大会）、大森裕實（中部）、原田園子（関西）、南出康世（関西）、尾関直子（広報・通信）、笹島茂（セミナー）

**【監事】** 椿忠男、矢田裕士

**【副支部長】** 新井良夫（北海道）、弓谷行宏（東北）、芝垣茂（関東）、木村松雄（関東）、大森裕實（中部）、小栗裕子（関西）、岩井千秋（中国・四国）、樋口晶彦（九州・沖縄）

**【本部幹事】** 尾関直子（代表幹事、総務委員長）、渡辺敦子、湯澤伸夫（副代表幹事）、浅川和也（財務委員長）、浅岡千利世（全国大会運営委員長）、大須賀直子（広報通信委員長）、下山幸成（ネットワーク管理委員長）、河野円（紀要委員長）、河内山晶子（セミナー事業委員長）、相川真佐夫（国際交流委員長）、山崎敦子（研究会担当委員長）、高橋潔（JACET賞選考委員長）

**【支部幹事】** [北海道支部] 河合靖（事務局幹事）、横山吉樹（幹事）、[東北支部] 富田かおる（事務局幹事）、倉内早苗（幹事）、[関東支部] 上田倫史（事務局幹事）、塩沢 泰子、下山幸成、白井芳子（幹事）、[中部支部] 下内充（事務局幹事）、榎木蘭鉄也（幹事）、[関西支部] 幸重美津子（事務局幹事）、平井愛、生馬裕子、西納春雄、山西博之、竹蓋順子（幹事）、[中国・四国支部] 三宅美鈴（事務局幹事）、高橋俊章（幹事）、[九州・沖縄支部] 上村俊彦（事務局幹事）、古村由美子、Pennington、Wakako（幹事）

**【社員】** [北海道支部] 8名、[東北支部] 7名、[関

東支部] 45名、[中部支部] 15名、[関西支部] 26名、[中国・四国支部] 10名、[九州・沖縄支部] 11名、[本部] 11名 計 133名

## ●2010年度主な行事日程（7月以降）

### 7月

- 1日（木）『JACET通信』174号（日本語版）発行
- 2日（金）－3日（土） KATE 2010 International Conference（ソウル・大韓民国）
- 3日（土）九州・沖縄支部大会（西南学院大学）／九州・沖縄支部総会、AILA EBIC Business Meeting（オーストラリア）
- 10日（土）北海道支部大会（北海道大学）／北海道支部総会
- 17日（土）運営会議
- 17日（土）関東支部月例研究会
- 24日（土）関西支部第1回講演会（京都キャンパスプラザ（予定））
- 26日（月）『関西支部ニューズレター』（Web版）54号発行

### 8月

- （未定）ICT調査研究特別委員会中国・四国支部講演会
- 14日（土）運営会議
- 20日（金）関東支部月例研究会
- 22日（日）－25日（水）第38回サマーセミナー（草津セミナーハウス）

### 9月

- 6日（月）臨時理事会（宮城大学）（主な議題：2011年度事業計画関連審議）
- 6日（月）全国委員会・顧問会議（同上）
- 7日（火）会員総会（同上）
- 7日（火）－9日（木）第49回（2010）JACET全国大会（宮城大学大和キャンパス）
- 18日（土）運営会議
- 25日（土）中国・四国支部第1ブロック研究会（広島国際大学）
- 30日（木）『中国・四国支部ニューズレター』5号発行

### 10月

- 1日（金）『JACET通信』175号（英語Web版）発行
- 2日（土）関西支部第2回講演会（西宮大学交流センター（予定））
- 9日（土）2010 PEKETA International Confer-

ence (Busan、大韓民国)

16日(土) 運営会議

16日(土) 関東支部月例研究会

16日(土)(予定) 中部支部講演会(南山短期大学)

16日(土) 中国・四国支部第2ブロック研究会(就実大学)

24日(日) 『関西支部ニューズレター』50号発行

31日(日) JACET Journal 51号刊行

(未定) 北海道支部研究会(藤女子大学)

## 11月

1日(月) 『JACET通信』176号(大会特集号(日本語版))発行

6日(土) 中国・四国支部第3ブロック研究会(松山大学)

12日(金) - 14日(日) The 19th International Symposium and Book Fair on English Teaching (ETA-ROC大会)(台北市、台湾)

13日(土)(予定) 九州・沖縄支部秋季学術講演会(未定)

20日(土) 運営会議

27日(土) 東北支部11月例会

28日(日)(予定) 関西支部秋季支部大会(ユニティ大学共同利用施設) / 関西支総会

## 12月

(未定) 57th TEFLIN International Conference (インドネシア)

1日(水) 『JACET通信』177号(日本語版)発行

1日(水) 『会員名簿2010年度』発行

1日(水) 『九州・沖縄支部紀要』15号刊行

4日(土) 2010 ALAK Conference (大韓民国)

10日(金) 『中部支部紀要』8号刊行

18日(土)(予定) 中部支部定例研究会(中京大学(予定))

18日(土) 中国・四国支部 地区大学間連携イベント: 大学生 Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会(未定)

18日(土) 運営会議

18日(土) 関東支部総会(早稲田大学)

(未定) 北海道支部研究会(北海道大学)

19日(日) 臨時理事会(JACET事務所)

20日(月) 『中部支部ニューズレター』25号発行

## 1月

(未定) 31st Thai TESOL International Conference (タイ)

22日(土) 運営会議

(未定) 北海道支部研究会(未定)

30日(日) 『北海道支部紀要』8号刊行

## 2月

19日(土) 運営会議

26日(土) 中部支部定例研究会(名城大学(予定))

## 3月

1日(火) 『JACET通信』178号(英語Web版)発行

5日(土) 関西支部第3回講演会(関西学院大学 大阪梅田キャンパス(予定))

12日(土) 運営会議

18日(金) 第2回定例理事会(JACET事務所)

19日(土) 第2回定例社員総会(早稲田大学)

19日(土) 関東支部月例研究会

25日(金) 『関東支部学会誌』7号刊行

28日(月) 第20回春季英語教育セミナー(早稲田大学)

31日(木) JACET Journal 52号刊行

31日(木) 『ICT調査研究特別委員会活動報告書』刊行

31日(木) 『北海道支部ニューズレター』24号発行

31日(木) 『東北支部通信』37号発行

31日(木) 『関西支部紀要』13号刊行

31日(木) 『中国・四国支部研究紀要』8号刊行

31日(木) 文科省へ2011年度事業計画提出締切

## 社員総会報告

総務担当理事 寺内 一(高千穂大学)

### 社団法人大学英語教育学会 平成21年度第2回社員総会議事録

日時: 平成22年3月21日(日) 15時00分~16時00分

会議場: 東京都新宿区西早稲田1丁目6番1号 早稲田大学商学学術院大会議室

総社員数: 137名

出席社員数: 107名 内訳 本人出席 21名(出席者名簿別添)、委任状出席 86名(委任状出席者名簿別添) よって『定款』第32条の規定の定足数以上を充足

陪席者：役員23名（うち委任状出席者1名）（役員名簿別添）、（事務局次長）荒川明子

議長：笹島茂

副議長：尾関直子、湯澤伸夫

書記：尾関直子、湯澤伸夫

議事録署名人：尾関直子、湯澤伸夫

## I. 開会

寺内一総務担当理事より、定款所定の定足数を満たした旨の報告があり、社員総会の開会が宣言された。

## II. 議長選出

寺内一総務担当理事が議長の選出について諮ったところ、議長に笹島茂氏、副議長に尾関直子氏、湯澤伸夫氏が選出された。

## III. 議事録署名人選出

議長が議案審議に先立ち、議長の他の議事録署名人2名について、尾関直子氏と湯澤伸夫氏の兩名を指名したい旨を述べたところ、異議なく承認された。

## IV. 会長挨拶

森住衛会長より、挨拶があった。

## V. 議事

### 第1号議案 平成22年度人事

#### 1. 役員

森住衛会長より、任期満了による役員改選にあたり、役員（任期：平成22年4月1日から平成24年3月31日まで）の重任・新任について説明があり、次の者が推薦された。議長がこれを諮ったところ、異議なく選任され、被選任者はいずれもその就任を承諾した。

理事 神保 尚武（早稲田大学教授）（重任）

理事 岡田 伸夫（大阪大学教授）（重任）

理事 寺内 一（高千穂大学教授）（重任）

理事 石田 雅近（清泉女子大学教授）（重任）

理事 大森 裕實（愛知県立大学教授）（新任）

理事 尾関 直子（明治大学教授）（新任）

理事 木村 松雄（青山学院大学教授）（重任）

理事 小嶋 英夫（弘前大学准教授）（重任）

理事 小宮 富子（岡崎女子短期大学教授）（新任）

理事 笹島 茂（埼玉医科大学准教授）（新任）

理事 芝垣 茂（東海大学教授）（重任）

理事 高井 收（小樽商科大学教授）（新任）

理事 高橋 恒一（三井住友海上火災保険株式会社顧問）（新任）

理事 中野 美知子（早稲田大学教授）（重任）

理事 野口ジュディー津多江（武庫川女子大学教授）（新任）

理事 原田 園子（神戸女学院大学名誉教授）（重任）

理事 松岡 博信（安田女子大学教授）（新任）

理事 見上 晃（拓殖大学教授）（重任）

理事 南出 康世（大阪女子大学名誉教授）（重任）

理事 山内 ひさ子（長崎県立大学教授）（重任）

理事 山岸 信義（日本教育大学院大学客員教授）（重任）

理事 山口 光（社団法人共同通信社顧問）（新任）

監事 椿 忠男（椿忠男税理士事務所所長）（重任）

監事 矢田 裕士（東京家政大学教授）（重任）

引き続き、森住衛会長より、会長選挙の結果を受けて、神保尚武氏を会長とすること及び岡田伸夫氏と寺内一氏を副会長とすることについて説明があり、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

なお、専務理事と常務理事については、平成22年度第1回理事会で正式決定となることから、それまでは、岡田伸夫副会長が専務理事、寺内一副会長が常務理事を代行することが承認された。

さらに、平成20年8月15日の設立総会で認められた役員の任期は平成22年3月の通常総会までとなっているため、3月22日から3月31日までは年度内ということもあり、現役員体制で行うことが提案され、了承された。

#### 2. 社員

森住衛会長より、任期満了による社員改選にあたり、社員（任期：平成22年4月1日から平成24年3月31日まで）について、別添の社員一覧の提案があり、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

#### 3. 運営委員長・運営委員等

森住衛会長より、その他運営委員等の人事案について説明があり、異議なくすべて承認された。

### 第2号議案 平成22年度活動計画・予算

#### 1. 平成22年度活動計画

寺内一総務担当理事より説明があり、下記1～5号事業がすべて承認された。

(1) 1号事業 大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

- (2) 2号事業 紀要、学会誌等の出版物の刊行
- (3) 3号事業 大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰及び協力
- (4) 4号事業 大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究
- (5) 5号事業 その他のこの法人の目的を達成するために必要な事業（「JACET創立50周年記念寄付事業」が新規事業として追加）

2. 平成22年度予算

見上見財務担当理事より説明があり、「JACET創立50周年記念寄付事業」（400万円）の項目が収入に加わったことを含めて、予算が承認された。

第3号議案 諸規程等の整備

1. Submission Guidelines / 査読者の選考

木村松雄紀要担当理事よりJACET JournalのSubmission Guidelinesの変更について説明があり、承認された。査読者の選考に関してはさらに検討し次回提案することが了承された。

2. 感謝状贈呈ガイドライン

寺内一総務担当理事より説明があり、「感謝状贈呈ガイドライン」が承認された。これを受けて、尾形良道氏、多田稔氏、豊田昌倫氏、矢野安剛氏の4名に感謝状を贈呈することが報告された。

3. 大学英語教育学会賞運営要領

小嶋英夫大学英語教育学会賞担当理事より説明があり、「大学英語教育学会賞運営要領」が承認された。

第4号議案 その他の懸案事項

1. 著作権等

寺内一総務担当理事から指名を受けた笹島茂代表幹事より「情報公開規程案」「紀要掲載論文等の著作権に関するガイドライン案」について説明があり、さらに検討していくことが了承された。

2. 他学会との関係

(1) 言語系学会連合

寺内一総務担当理事より説明があり、言語系学会連合に4月より加入することが承認された。

(2) 国内諸学会との提携及び情報の広報の方法

寺内一総務担当理事より、語学教育研究所、外国語教育メディア学会、全国語学教育学会の各学会と正式に提携文書を交わすことが提案され、了承された。また、他学会の情報の広報の方法についても検討していく旨の説明があり、了承された。

3. 50回以降の全国大会での発表資格

神保尚武副会長より、50回以降の全国大会で非会員の発表の可能性について説明があり、検討することが了承された。

第5号議案 中・長期的な将来課題

下記の件について森住衛会長よりそれぞれ説明があり、すべて了承された。

- 1. 今後の公益化への考え方
- 2. 学会間および内外の関連諸機関との連携・協賛、国際化
- 3. 会員、特に英語母語話者の会員の増強
- 4. 日本人の英語能力試験の開発
- 5. 大学英語教員の養成と身分保障
- 6. 大会、紀要などのあり方

VI. 閉会

以上をもって社団法人大学英語教育学会社員総会の議事を終了したので、議長は閉会を宣言した。  
\*閉会后、今年度で退任する役員との挨拶があった。

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は、次に署名押印する。

平成22年3月21日

社団法人大学英語教育学会

平成21年度第2回社員総会

議長 笹島 茂

議事録署名人 尾関 直子

議事録署名人 湯澤 伸夫

\*\*\*\*\*

社団法人大学英語教育学会  
平成22年度事業計画

平成22年度は本学会が社団法人となって3年目を迎える年である。社会的責任と、研究・教育に対する一層の良心的熱意を持って活動がさらに行われることになる。また、設立時に提出した事業計画でも触れているように、本年度においては、2年後に控えた大学英語教育学会50周年に向けて、学会をあげて大規模な活動がさらに繰り広げられることになる。具体的には、第5号事業に「JACET創立50周年記念寄付事業」を追加し新規計画として行うこととする。

以下は、定款、第5条、第1項、第1号から第5号に掲げる事業目的に基づいて企画された、平成22年度事業計画の概要である。

**1号事業：**大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

**(1) 全国大会の開催**

目的：大会ごとにテーマを決定し、大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行い、会員である全国の大学教員等に調査・研究内容をフィードバックする。当該調査・研究発表内容は会員が大学等の授業においてこれを実践し、もってわが国の英語教育の改善に資することを目的とする。

対象：本学会の会員及び英語教育関係者。

規模：全国大会約800名。

広報：

- ①会員に対しては学会ホームページと『JACET通信』を通じて広く知らしめる。
- ②その他の英語教育関係者に対しては、学会ホームページと、一般商業雑誌の学会情報（『英語教育』）を通じて行う。
- ③国内外の関係諸学会に「全国大会案内」を送付する。
- ④マスコミ各社に「全国大会案内」を送付する。

成果：この大会で披露された研究成果や知見を広く普及させることで、会員をはじめ英語教育関係者がより専門性の高い教育研究を行う成果が期待される。

**(2) セミナーの開催**

目的：セミナーごとに、教員の養成及び教員の研修等のテーマを決定し、国外の提携学会より講師を招聘する等、英語教育及び応用言語学等の最新の研究等についての研鑽の場を提供し、わが国の英語教育の発展に資することを目的とする。

対象：当学会の会員・その他の英語教育関係者。

規模：約50名。

広報：

- ①会員に対しては『JACET通信』を通じて告知する。
- ②一般には、案内を学会ホームページに掲載するほか、月刊の一般商業雑誌『英語教育』に掲載する。
- ③英語教育関係団体に案内を送付する。

成果：このセミナーで学んだ事柄を応用すること

で、セミナー参加者はもちろん英語教育関係者の専門性をより高めることが成果として期待される。

**2号事業：**紀要、学会誌等の出版物の刊行

**(1) 『紀要』の刊行**

JACET『紀要』の刊行を行う。

目的：大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究成果を学会公認の論文誌として刊行することにより、わが国の英語教育の改善に資することを目的とする。

対象：会員・その他の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会・海外提携学会等）

規模：毎号3,500冊。刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や、地方公共団体の教育委員会、英語教育関係団体、大学図書館等に無償で献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。非会員に対しては実費相当額程度で有償配布をする。

広報：

- ①投稿規程はJACETホームページと紀要前号巻末に掲載する。ホームページにはテンプレートも掲載して投稿を促進する。
- ②紀要委員会が編集、校正を行う。

成果：

- ①1つの投稿論文は該当分野の専門家3名に査読を依頼し、独創性、構成・論理性、研究の水準等を総合的に評価する。それらを紀要委員会で最終判断した後、紀要委員会にて、その論文が英語教育の改善に寄与するものであるかを鑑みて最終的に掲載、非掲載を決定する。採択率は毎回、2分の1から3分の1程度であり、日本における英語教育のトップレベルの論文集であると自負するものである。
- ②JACET紀要への掲載は執筆者にとり大きな業績となるのみならず、研究者同士の情報交換の場として更に活発な研究の促進が期待される。
- ③海外に対し、日本の英語教育に関する最新事情を発信することが可能となる。

**(2) 『JACET通信』の刊行**

目的：学会の最近の動向や大学英語教育の研究と実践の優れた例を会員に紹介する。また、英

語版により、英語を母語とする教員にも理解せしめる。また、世界にJACETの活動を知らしめることが可能となる。日本語版、英語版のほか、Web版がある。

対象：会員・その他の英語教育関係者（国立国会図書館・大学基準協会・国立情報研究所電子図書館サービス・コンピュータ利用協議会・全国語学教育協会他）。なお、Web版についてはHPに掲載するので一般の人でも閲覧が可能である。

規模：会員全員に配布。刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や、地方公共団体の教育委員会、英語教育関係団体、大学図書館等に無償で献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。

成果：学会の最近の動向や大学英語教育の研究と実践の優れた例を紹介することにより、会員の大学英語教員としての意識を向上させることが可能となる。

### (3)「英語教育学大系」全13巻の刊行（平成23年度までの短期事業）

本学会は平成24年度に創立50周年を迎えるにあたり、平成19年度の総会において、学会の総力をあげ、これまでの活動を総括すると同時に今後の大学英語教育のあり方を見据える大学英語教育学の確立を目指し、創立50周年記念「英語教育学大系」を刊行することを決議した。平成19年度に50周年記念刊行事業準備委員会を設立し、本大系の基本理念、テーマ、巻数（全13巻）、各巻の責任編集者を決定した。平成20年度の早い時期に本大系の出版社とすべての巻の執筆者を決定し、執筆作業に入る。平成21年度、22年度、23年度にそれぞれ数冊ずつ刊行し、遅くとも24年度の全国大会時までに全13巻の刊行を終える予定である。

目的：学会創立50周年を記念し、学会の総力を結集し、大学英語教育学の確立を目指すとともに、その研究成果を日本の大学英語教育の改善に生かすことを目的とする。

刊行された出版物は、関係省庁（文部科学省等）や英語教育関係団体等に献本され、学会の研究成果の公開及び普及啓発を行う。

対象：大学英語教育に携わるすべての者、当学会の会員、その他の英語教育関係者

規模：「英語教育学大系」全13巻を刊行する。学

会は刊行準備費用として2,000万円を用意している。

成果：将来の大学英語教育学研究の土台が築かれるとともに、研究に裏打ちされた大学英語教育が日本の大学で広く実践され、英語教育の改善に資することが期待される。

**3号事業**：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰及び協力

### (1) 大学英語教育学会賞の表彰（学術賞・新人賞・実践賞）

大学英語教育学会学術賞・実践賞・新人賞の審査結果に基く表彰を行う。

目的：英語教育における研究または実践上の顕著な業績を通してわが国における大学英語教育の改善に寄与した個人または団体に対して表彰を行うことにより、わが国の大学教員等の英語教育に対する意識を高めることを目的とする。

対象：

- ①「学術賞」は推薦時までの約1年間に公刊された、英語教育に関連した分野における高度な学術研究が対象となる。
- ②「新人賞」は、本学会の前年度全国大会における研究発表・実践報告および本学会紀要に発表された優れた研究または実践が対象となる。
- ③「実践賞」は、大学、短期大学、または高等専門学校における英語教育で顕著な成果を挙げた実践が対象となる。

規模：賞は上記の成果を収めた個人または団体に対して、学会内に設置する大学英語教育学会賞選考委員会の選考を経て理事会が決定し全国大会で授賞する。授賞は原則として各賞について年度ごとに1件とする。受賞者に対しては賞状とともに記念品を贈呈する。

成果：本大学英語教育学会賞は、受賞者に対しては研究者としての功績を称えることにより、研究活動に一層精進することを奨励することになり、一般会員に対しても本学会賞を目標として各自の研究を発展させることを導く要因となることが期待される。

### (2) 関係学術団体への派遣

本学会から海外学術団体へ優れた英語教育関係

者の派遣を行う。

目的：海外提携学会の大会へ講演者等として派遣され、本学会代表として参加することにより、関係諸学会との人的及び学術交流の促進を図る。

対象：学会社員又は理事

規模：海外11団体、RELC (Regional Language Centre)、KATE (The Korea Association of Teachers of English)、IATEFL (International Association of Teachers of English as a Foreign Language)、ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)、ETA-ROC (English Teachers Association of the Republic of China)、MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)、PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)、AILA (Association Internationale de Linguistique Appliquée)、Thai TESOL (Thailand TESOL)、TEFLIN (Teaching English as a Foreign Language in Indonesia)、CELEA (China English Language Education Association) が対象。

成果：学会として海外との人的及び学術交流を行い、情報交換をより一層活性化し、研究活動を促進することにより双方の学会の研究の質を高め、また、共同研究を行った実績もあるこれら海外の有力学会に本学会から派遣された代表は、海外における最新の研究動向を収集し、帰国後はこれをセミナー等で発表、または、学会誌等で報告することにより、広くわが国の英語教育関係者に海外の研究動向を周知・普及することが期待される。

**4号事業**：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

(1) 全国レベルの調査研究

①大学英語教育に関する実態調査研究（2年間の短期事業）

平成21年度から始まった本調査研究はこれまで踏み込むことができなかつた従来の大学の「英語」という科目の範囲を超えた項目を調査した結果を分析検討する。年度末には報告書を刊行する予定である。

目的：従来の学部教育の「英語」という範疇ばかりでなく、英語を実際に使用して国際社会で

通用する人材育成のために高等教育機関がどのように取り組んでいるかという実態を調査し、その報告を行なうことを目的とする。

対象：大学英語教育学会会員、会員所属の高等教育機関、英語教育関係諸団体、海外提携学会

規模：全国組織の大学英語教育実態調査研究特別委員会

成果：本調査結果を分析することにより、日本の高等教育における英語教育の実態が明らかになる。また、海外の教育機関の実態と比較検討することにより、中長期的な視点に立った日本の英語教育全体の指標作りに資するものとする。本学会の調査研究は、学会での発表及び論文の刊行を通じて一般にも公開されるが、その他にも報告書の配布、HP上における公開を通して研究成果の公開を行う。

②第二次ICT (Information/Communication Technology) 調査研究（2年間の短期事業）

平成20年度に完了した第一次調査研究で未調査の部分と問題点を、さらに調査・分析する。平成24年3月までに『ICT授業実践事例とその理論II』及び『ICT授業評価とその理論II』の2種類の報告書を刊行予定である。

目的：IT技術の発達に伴い、自国にしながら世界の若者たちが話し合い、お互いの理解を深めることが可能になっている。本委員会では、大学間協調を目指して、ICTの発達に見合った英語教育の方法の開発と評価に取り組む。

対象：英語教育関係者；英語を日常で使用していないEFLの日本人大学生とアジアを含む世界の若者達

規模：全国組織の第二次ICT (Information/Communication Technology) 調査研究特別委員会

成果：ICTの研究成果を報告書として刊行することで、会員だけでなく英語教育関係者にひろく本研究の特質を知らせ、更なる英語教育に係る研究の発展や大学での英語教育の現場で応用出来る成果が期待される。本学会の調査研究は、学会での発表及び論文の刊行を通じて一般にも公開されるが、その他にも報告書の配布、HP上における公開を通して研究成果の公開を行う。それによって、ICTの調査研究が今後のe-Learningによる英語教育の実践指導及び理論研究に貢献することが期待

される。

③大学におけるリメディアル教育の在り方に関する調査研究（2年間の短期事業）

本調査研究は、大学での「学生の低学力化」の問題を取り上げ、その原因を探り、解決法を提言するためのものである。具体的には、優れた授業実践例を過去・現在のすべての教育レベルに求め、その理論的背景を学びつつ、大学での授業実践に役立つ情報を事例集として提示する。

目的：リメディアル教育を中心とした大学での授業実践に関する例を全国的に集め、理論的な研究を踏まえ、最終的にはその成果を『高等教育における英語授業の研究—リメディアル教育を中心に—』（仮題）という刊行物を刊行する。

対象：大学英語教育学会会員及びリメディアル教育に関心を持つ教育従事者

規模：全国組織のリメディアル教育調査研究特別委員会

成果：大学英語教育における理論と実践の取り組みをリメディアル教育の視点から捉えた授業実践事例集を刊行する。教育現場の授業実践改善と授業活性化に結びつくことが期待される。本学会の調査研究は、学会での発表及び論文の刊行を通じて一般にも公開されるが、その他にも報告書の配布、HP上における公開を通して研究成果の公開を行う。

#### (2) 専門分野別の研究会活動（毎年継続事業）

大学英語教育学会の各支部にはそれぞれの地域の研究や教育の活性化と協力を意図して、専門英語教育（ESP：English for Specific Purposes）研究会、英語語彙研究会、東アジア英語教育研究会などの研究会があり（平成21年度時点で43研究会）、これらの研究会は、それぞれ独自にテーマを持ち、論文などの出版、学会発表、講演会、調査、学習会などを実施している。なお、各研究会には、毎年1～3月に研究会名簿、活動報告、活動計画、予算および決算報告の提出が義務づけられている。

目的：各研究会専門分野の調査研究

対象：大学英語教育学会会員及び各専門分野に関心を持つ者

規模：各研究会により各地域から国際的な規模まで多様である。

成果：『紀要』等での発表、会員相互の専門知識

と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元などの成果が期待される。

**5号事業**：前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業

定例及び必要な場合には臨時の、理事会、総会、運営会議、運営委員会、特別委員会等を開催し、必要な事業について検討を行う。さらに、2年後に控えた大学英語教育学会50周年に向けて、「JACET創立50周年記念寄付事業」を追加し新規計画として行うこととする。

#### (1) JACET創立50周年記念寄付事業（新規事業）

学会創立50周年を記念して、第50回記念国際大会を福岡市で開催、50周年記念誌の発行、50周年記念刊行事業（「英語教育学大系」全13巻）を行うが、これらの事業を通して会員および非会員へ研究成果を伝達または配布し英語教育界全体の発展を目指す。この為の資金の一部として、JACET会員をはじめ、関係者に寄付を募る。

目的：学会創立50周年関連の事業（第50回記念国際大会の開催、50周年記念誌の発行、50周年記念「英語教育学大系」全13巻の刊行）を通して会員および非会員へ研究成果を伝達または配布し英語教育界全体の発展を目指す。

対象：全会員

期間：平成22年5月～平成22年11月（6ヶ月間）  
目標に足りない場合は延長もある

規模：全体の目標額 400万円  
（内訳）

第50回記念国際大会：講師宿泊/交通費/謝礼/大会報告など200万円

『50周年記念誌』：印刷代、配布費用100万円  
50周年記念刊行事業（「英語教育学大系」全13巻）：無料配布のための出版社からの購入補助100万円

成果：会員および非会員が50年を経た大学英語教育の過去を知ることになり、その研究成果に基づいて英語教育界全体が発展していくことになる。



平成22年度収支予算書  
(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1 事業活動収入</b>				
① 基本財産運用収入				
基本財産運用収入	70,000	300,000	△ 230,000	2,000万円×0.35%
② 会費収入				
会費収入	24,954,000	24,499,000	455,000	社団法人化後の会員数増加を加味
③ 大会収入				
大会参加費収入	6,162,500	5,785,000	377,500	会員の増加に伴う収入増を加味
大会展示料収入	1,795,000	2,100,000	△ 305,000	1スペース平均30,000円
広告料収入	1,080,000	1,070,000	10,000	JACET通信、会員名簿、大会要綱
④ 事業収入				
印税・原稿料収入	2,500,000	2,500,000	0	既出版物に係る印税、新規出版物の原稿料
書籍販売収入	600,000	600,000	0	ハンドブック等販売収入
⑤ 寄附金収入				
寄附金収入	4,100,000	150,000	3,950,000	50周年記念事業に伴う寄附金募集
⑥ 雑収入				
受取利息収入	30,000	9,000	21,000	
その他	320,000	320,000	0	ニューズレター、支部紀要に掲載する広告料他
事業活動収入計 (A)	41,611,500	37,333,000	4,278,500	
<b>2 事業活動支出</b>				
[1] 事業費支出(小計)	34,247,191	26,118,600	8,128,591	
(1) 大会セミナー等事業				通常予算 5,230,700 50周年大会費用 1,403,000
大会運営費	6,633,700	6,007,100	626,600	
セミナー費	1,300,000	1,300,000	0	
通信費	655,600	519,600	136,000	
印刷費	1,956,000	1,742,000	214,000	
出張費	300,000	300,000	0	
(2) 出版物刊行事業				発刊数増加を加味
50周年記念刊行事業費	8,400,000	2,720,000	5,680,000	
通信費	2,109,100	2,224,200	△ 115,100	
印刷費	4,647,000	4,817,800	△ 170,800	
(3) 表彰協力事業				第2次ICT委員会 500,000円 リメディアル委員会 500,000円 第3次実態調査委員会 500,000円
国際交流費	950,000	750,000	200,000	
JACET賞	200,000	208,500	△ 8,500	
AILA加盟料	153,000	153,000	0	
(4) 調査研究事業				
特別委員会費	1,500,000	500,000	1,000,000	
研究活動費	1,839,511	860,000	979,511	
(5) その他事業				
渉外費	300,000	300,000	0	
会議費	2,594,020	2,789,500	△ 195,480	
通信費	709,260	926,900	△ 217,640	
[2] 管理費支出(小計)	14,742,040	16,033,340	△ 1,291,300	
人件費	7,670,000	8,999,000	△ 1,329,000	諸手当等を追加考慮
社会保険料	570,000	570,000	0	健保+労災分
租税公課	350,000	350,000	0	前年度実績ベースで計上
事務所経費	4,372,040	4,446,340	△ 74,300	
支払手数料	1,700,000	1,600,000	100,000	御田誠税理士事務所、新日本アーレストアンドヤング税理士法人
雑費	80,000	68,000	12,000	支部の実支払額を参考に計上
事業活動支出計 (B)	48,989,231	42,151,940	6,837,291	
事業活動収支差額	△ 7,377,731	△ 4,818,940	△ 2,558,791	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
<b>1 投資活動収入</b>				
① 特定資産取崩収入				
特定預金取崩収入	9,800,000	3,870,000	5,930,000	特別委員会費と50周年刊行事業費の財源
② 運用財産繰入支出				
運用財産取崩収入	0	1,200,000	△ 1,200,000	
投資活動収入計 (C)	9,800,000	5,070,000	4,730,000	
<b>2 投資活動支出</b>				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	200,000	200,000	0	
特定預金取得支出	1,600,000	0	1,600,000	50周年記念事業(翌期以降分)
投資活動収支計 (D)	1,800,000	200,000	1,600,000	
投資活動収支差額	8,000,000	4,870,000	3,130,000	
III 予備費支出 (E)	30,000	30,000	0	
当期収支差額 (A)-(B)+(C)-(D)-(E)	592,269	21,060	571,209	
前期繰越収支差額	3,233,033	3,211,973	21,060	
次期繰越収支差額	3,825,302	3,233,033	592,269	

(注) 1 借入金限度額 0円  
2 債務負担額 0円

## 支部便り

### 〈九州・沖縄支部〉

第2回 JACET 第50回記念大会地元実行委員会

日時：2010年1月9日（土）13:00～15:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

2009年度第7回九州・沖縄支部役員会

日時：2010年1月9日（土）15:00～17:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

第95回東アジア英語教育研究会

日時：2010年1月23日（土）15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

発表：原 隆幸（明海大）

題目：「マレーシアにおける英語教育政策」

2009年度第8回九州・沖縄支部役員会

日時：2010年2月20日（土）13:00～15:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

第96回東アジア英語教育研究会

日時：2010年2月20日（土）15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

発表：古村由美子（九州大）

題目：「韓国と日本のステレオタイプとは？」

第97回東アジア英語教育研究会

日時：2010年3月27日（土）15:30～17:30

会場：西南学院大学1号館205教室

発表1：水島孝司（南九州短大）

題目：「50語英作文コンテストと学生の反応」

発表2：沖 洋子

題目「私の授業、リーディングー効率的なリーディング能力の向上を目指してー」

2010年度第1回九州・沖縄支部役員会

日時：2010年4月17日（土）13:00～15:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

第3回 JACET 第50回記念大会地元実行委員会

日時：2010年4月17日（土）15:00～17:00

会場：西南学院大学学術研究所大会議室

2010年度第1回九州・沖縄支部紀要編集委員会（予定）

日時：6月12日（土）11:00～13:00

会場：西南学院大学西南コミュニティセンター2階会議室

2010年度第2回九州・沖縄支部役員会（予定）

日時：6月12日（土）14:00～17:00

会場：西南学院大学西南コミュニティセンター2階会議室

第24回大学英語教育学会九州・沖縄支部研究大会（予定）

日時：7月3日（土）9:15～17:15

会場：西南学院大学1号館

大会テーマ：「多様化する英語学力と大学英語教育」  
（伊藤健一・北九州市立大学）

### 〈中国・四国支部〉

1. 平成22年度第1回役員会

日時：2010年4月24日（土）

場所：安田女子大学

議題

I. 報告事項

- 1) 平成21年度第2回定例理事会及び社員総会の報告
- 2) 2009年度OPPイベントの開催と報告書
- 3) 平成21年度支部活動報告
- 4) 平成21年度支部決算報告

II. 審議事項

- 1) 平成22年度支部人事（案）
- 2) 平成22年度支部活動（案）
- 3) 平成22年度支部予算（案）
- 4) 平成23年度支部予算（案）
- 5) 平成23年度支部活動（案）
- 6) 平成23年度支部人事（案）
- 7) 2010年度のOPPイベントについて
- 8) 「第2次授業学研究委員会」について
- 9) 支部大会について
- 10) 支部紀要について

2. 平成22年度第2回役員会

日時：2010年6月5日（土）12:00～13:00

場所：鳥取大学

3. 平成22年中国四国支部大会

日時：2010年6月5日（土）

場所：鳥取大学

1. 総会 13:00～13:30
2. 研究発表 13:40～14:40
3. 支部研究会実践報告 14:45～15:15
4. シンポジウム 15:15～17:15

「英語入試を考えるー現状と今後の課題（仮題）」  
（鳥越秀知・香川高専）

## 〈関西支部〉

### I. 2009年度の活動報告

#### 1. 大会、セミナー等の開催

##### (1) 支部大会の開催

###### ・春季大会

日時：2009年6月27日

場所：京都外国語短期大学（京都）

大会テーマ：「大学生の英語力の現状にどう対応するか（Ⅱ）」

参加者：121人

内容：研究発表、実践報告、シンポジウム、ワークショップが行われた。

###### ・秋季大会

日時：2009年11月28日

場所：神戸大学（兵庫）

大会テーマ：「英語教育を学際的視野からとらえる－認知・心理・社会言語学からのアプローチ－」

参加者：122人

内容：研究発表、実践報告、シンポジウム、ワークショップが行われた。

##### (2) 講演会の開催

###### ・第1回講演会

日時：2009年7月25日

場所：キャンパスプラザ京都（京都）

講演タイトル：文学教育研究会企画によるシンポジウム「英語教育における文学教材の可能性」

参加者：36人

###### ・第2回講演会

日時：2009年10月3日

場所：神戸国際会館（神戸）

講演タイトル：英語力指標研究会企画によるシンポジウム「小学校外国語活動と大学教育との接点を求めて～教員養成の現状と展望～」

参加者：30人

###### ・第3回講演会

日時：2009年3月6日

場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス（大阪）

講演タイトル：「これでいいのか、日本の英語教育～日米の狭間で31年、国際舞台の視点から～」

講師：熊谷俊樹（京都外国語大）

参加者：41人

#### 2. 紀要、支部ニューズレター等の出版物の刊行

##### (1) 関西支部紀要の刊行

『JACET関西紀要』12号

発行日：2010年3月31日

内容：研究論文、実践報告、研究ノートの3つの分野。

規模：650冊

##### (2) 関西支部ニューズレターの刊行

JACET-Kansai Newsletter No. 47；No. 48；No. 49；No. 50；No. 51

発行日：2009年4月；2009年6月；2009年8月；2009年10月；2010年1月

2009年1月30日

規模：各620部

内容：支部長巻頭言、支部大会報告、研究会報告、委員会報告、その他英語教育関連事項

#### 3. その他

##### (1) 支部総会の開催

2009年度 関西支部総会

日時：2009年6月27日

場所：京都外国語短期大学

目的：平成21年度の予算案、事業計画案等の検討と承認

対象：支部会員

##### (2) 支部役員会の開催

大学英語教育学会（JACET）関西支部役員会

日時：2009年7月25日；2009年11月28日；2010年3月6日

場所：キャンパスプラザ京都、関西学院大学大阪梅田キャンパス等

目的：支部活動方針と内容の検討と決定

対象：支部役員

内容：予算執行に関する申し合わせ、支部大会活性化案、紀要規定、支部長選挙、その他

### II. 2010年度の活動予定

#### 1. 大会、セミナー等の開催

##### (1) 支部大会の開催

###### ・春季大会

日時：2010年6月19日（土）

場所：同志社女子大学

テーマ：「英語教育の今後の方向性を探る」

内容：コロキアム1件、研究発表2件、実践報告6件、講演1件

- ・秋季大会  
日時：2010年11月27日（土）  
場所：関西学院大学（上ヶ原キャンパス）（予定）  
テーマ：未定  
内容：未定

(2) 講演会の開催

- ・第1回講演会（海外の外国語教育研究会担当）  
日時：2010年7月24日（土）15:30～17:00  
場所：キャンパスプラザ京都  
講演タイトル：「ヨーロッパにおける言語政策の最近の動向」“Recent Development of Language Policy in Europe”
- ・第2回講演会（教材開発研究会担当）  
日時：2010年10月2日（土）15:30～17:00（予定）  
場所：神戸国際会館  
講演タイトル：未定  
講師：未定
- ・第3回講演会  
日時：2011年3月5日（土）15:30～17:00（予定）  
場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス（予定）  
講演タイトル：未定  
講師：未定

2. 紀要、支部ニュースレター等の出版物の刊行

(1) 関西支部紀要の刊行

『JACET関西紀要』13号

発行日：2011年3月31日

内容：研究論文、実践報告、研究ノートの3つの分野。

規模：650冊

(2) 関西支部ニュースレターの刊行

JACET-Kansai Newsletter No. 52；No. 53；No. 54；No. 55；No. 56

発行日：2010年4月1日（発行済み）；2010年5月19日（発行済み）；2010年8月；2010年10月；2011年1月

規模：各620部

内容：支部長巻頭言、支部大会報告、研究会報告、委員会報告、その他英語教育関連事項

3. その他

(1) 支部総会の開催

2010年度 関西支部総会

日時：2010年6月19日

場所：同志社女子大学（今出川キャンパス）

目的：平成22年度の予算案、事業計画案等の検討と承認

対象：支部会員

(2) 支部役員会の開催

大学英語教育学会（JACET）関西支部役員会

日時：2010年7月；2010年10月；2011年3月

場所：未定

目的：支部活動方針と内容の検討と決定

対象：支部役員

内容：予算執行に関する申し合わせ、支部大会活性化案、紀要規定、支部長選挙、その他

（生馬裕子・大阪教育大学）

〈中部支部〉

1. 役員会

- ・2009年度第7回役員会

日時：2009年12月19日（土）12:30～14:15

場所：名古屋工業大学 2号館11階 ラウンジ  
会議室

議題：

- (1) 2月定例研究例会の講演会講師・研究会発表の選定
- (2) 研究企画委員の推薦方法規定の策定
- (3) 2010年度支部大会の日時・会場の決定、講演会講師の推薦

ほか

- ・2009年度第8回役員会

日時：2010年1月9日（土）14:00～16:00

場所：名古屋工業大学 19号館 会議室

議題：

- (1) 2月定例会の研究発表審査・プログラム作成
- (2) 2010年度支部大会のシンポジウム講師の推薦
- (3) 2010年度予算計画の見直し

ほか

- ・2009年度第9回役員会

日時：2010年2月27日（土）11:30～12:30

場所：名古屋工業大学 3号館2階 会議室

議題：

- (1) 支部会計（現時点の2009年度予算執行分、今後の執行予定分）の報告と審議
- (2) 支部大会プログラム案作成

ほか

・2010年度第1回役員会

日時：2010年4月3日(土) 14:00～16:00  
場所：中京大学 センタービル0号館7階07D  
議題：

- (1) 支部大会プログラムと大会運営(担当者)
- (2) 支部総会議題案
- (3) 2010年度ニューズレター・ホームページ  
担当と運営
- (4) 2010年度事業日程  
ほか

・2010年度第2回役員会

日時：2010年5月15日(土) 14:00～16:00  
場所：中京大学 センタービル0号館7階07D  
議題：

- (1) 支部大会運営確認
- (2) 支部総会資料作成  
ほか

## 2. 定例研究会

### (1) 12月定例研究会

日時：2009年12月19日(土) 14:30～17:40  
場所：名古屋工業大学 2号館  
研究発表：2件(「異文化理解研究会」研究発表)

- ①「日系アメリカ文学にみる「しかたがない」  
の文化的特徴 — 英語の借入語への提案」倉橋  
洋子(東海学園大)
- ②「日本の英語教育への国際英語論の有効性」  
吉川 寛(中京大)  
講演：「大学英語教育における授業デザイン研  
究」大島 純(静岡大)

### (2) 2月定例研究会

日時：2010年2月27日(土) 13:00～17:30  
研究発表：5件(「待遇表現研究会」研究発表含む)

- ①「新ソリューションを活用した英語教育の可能  
性 — 工業英語ハンドブックと視覚障害者英文  
点字教材から」馬場景子(中部大)
- ②「多言語使用の社会言語学的視点と英語教育」  
伊與田 洋之(名古屋外国語大)
- ③「小学校英語活動のクラス比較における考察」  
片野田 浩子(名古屋経営短期大)
- ④「日本語と英語のあいづちについて」津田早  
苗(東海学園大)
- ⑤「初対面会話でのターン・テイキングと発話  
量の日英比較」村田泰美(名城大)

講演：「ディスコース・ポライトネス理論と外  
国語教育 — 「相対的ポライトネス」の理論か  
ら対人コミュニケーションという観点を含んだ  
言語教育へ」宇佐まゆみ(東京外国語大)

## 3. その他

- (1) 23号ニューズレター発行(2009年12月20  
日)、24号ニューズレター発行(2010年5月10日)
- (2) 第27回(2010年)中部支部大会開催  
大会テーマ：「多文化共生時代の英語教育」  
English Education in an Age of Multiculturalism  
日時：6月6日(日) 10:00～16:55

会場：中京大学

特別講演：「多文化共生時代の英語教育 —  
English across Cultures」本名信行(青山学院  
大名誉教授)

シンポジウム：

「多文化共生と「想像のコミュニティ」への参  
加を目指す」八島智子(関西大)、  
「第二言語習得における普遍性と個別性」白井  
恭弘(ピッツバーグ大)、  
「Grammar in Englishes — コーパスで見る文法  
規範の揺らぎ」石川慎一郎(神戸大)  
コーディネーター 小宮富子(岡崎女子短期大)  
(石川有香・名古屋工業大学)

## 〈関東支部〉

### 1. 支部総会日程

第一回：6月27日(2009年度事業報告および  
2010年度事業計画について)

場所：東洋学園大学

時間：9:00～9:40

### 2. 2010年度支部合同会議日程予定

- 第1回4月17日(土)
- 第2回5月15日(土)
- 第3回7月18日(土)
- 第4回9月18日(土)
- 第5回10月17日(土)
- 第6回11月21日(土)
- 第7回2010年1月(未定)
- 第8回2月20日(土)
- 第9回3月20日(土)

### 3. 研究会活動

## 月例研究会2010年度活動予定

### 【JACET 関東支部月例研究会】

開催日	講演者	題目
5月15日 (土)	染谷 泰正 (関西大)	言語産出訓練の方法 論：インプットからア ウトプットへ
7月17日 (土)	鈴木 健 (明治大)	オバマに学ぶ説得コ ミュニケーション
8月20日 (金)	David Newby (Graz University)	未定
10月16日 (土)	未定	未定
3月19日 (土)	田中 宏昌 (明星大)	未定

\*なお、JACET 関東支部月例研究会の詳細な開催情報につきましては、随時関東支部HPにてご案内させていただきます。  
(<http://www.jacet-kanto.org/monthly/index2009.html>)

#### 4. 関東支部大会

日時：6月27日(日)

場所：東洋学園大学(本郷キャンパス)

大会テーマ「グローバルな観点から大学英語教育に求められるもの」

“What is Expected in College English Education from a Global Perspective”

基調講演「グローバル時代の英語発音とその科学的な分析法」

講演者：峯松信明(東京大)

\*関東支部大会のプログラムは関東支部HPにご確認ください。

(URL：<http://www.jacet-kanto.org/>)

(上田倫史 目白大学)

### 〈東北支部〉

1. 東北支部役員会・第1回全国大会実行委員会  
および第2回JACET賞選考担当支部委員会

日時：4月3日(土) 12:00～16:00

場所：仙台市民会館

東北支部4月役員会が開催された。以下の点について協議された。

1 2009年度支部決算・2010年度予算案について

2009年度の会計報告が了承された。

2 2010年度東北支部役員・支部推薦社員について

3 2010年度支部活動計画について

全国大会実行委員会・7月支部総会・11月例会・出版物の発行について

4 その他

2010年度の社員総会(6月・3月)について併せて第1回全国大会実行委員会が開催された。会場校(宮城大学大和キャンパス)・懇親会会場・実行委員等について協議された。これに続いて第2回JACET賞選考担当支部委員会が開かれた。

2. 第2回全国大会実行委員会および第3回JACET賞選考担当支部委員会

日時：4月24日(土) 12:00～16:00

場所：仙台市民会館

第2回全国大会実行委員会が開催され、実行委員の確認と役割分担の調整等を行った。その後、第3回JACET賞選考担当支部委員会が開催された。

3. 支部の出版物について

TOHOKU TEFL (JACET東北支部紀要) Vol. 3と『JACET東北支部通信』No. 36が2010年3月に発行された。

4. 今後の予定

9月に宮城大学(大和キャンパス)で開催されるJACET全国大会を東北支部が担当することに関連し、全国大会実行委員会、支部役員会・総会・例会を以下のように計画している。全国大会開催に伴い、本年度の東北支部大会は実施されない。

第3回全国大会実行委員会

日時：7月3日(土) 12:00～16:00

場所：宮城大学 401会議室(予定)

第4回全国大会実行委員会、7月支部役員会・総会

日時：7月17日(土) 12:00～16:00

場所：エルソーラ仙台 研修室2

第5回全国大会実行委員会

日時：8月8日(日) 12:00～16:00

場所：宮城大学

第6回全国大会実行委員会

日時：10月16日(土) 12:00～16:00

場所：エルソーラ仙台(予定)

11月支部役員会・例会

日時：11月27日（土）12:00～17:00

場所：エルソーラ仙台（予定）

例会：講演・研究発表

研究発表を募集しています。希望される方は概要を英語100語程度、または日本語200文字程度で事務局宛てにお送りください。締切は10月27日（水）です。

支部の出版物については、『JACET東北支部通信』No. 37が予定されている。2011年3月に発行される予定である。

（仙台高専・岡崎久美子）

## 〈北海道支部〉

### 1. 研究会の開催

#### 1) 2009年度第3回研究会

日時：2010年1月30日（土）14:00～15:10

場所：北海道大学

研究発表1：「Pragmatics 101」（ゼフ＝ブリックリン・北海学園大）

研究発表2：「理想的言語自己と心理的境界の働き：英語学習への影響に関する考察」（菅原健太・北海道大院）

#### 2) 2010年度第1回研究会

日時：2010年5月16日（日）14:00～15:20

場所：藤女子大学

研究発表：「学際的共同プロジェクトによる英語学習CALL教材開発：韓国の事例報告」（李元揆・北海道大客員教授・高麗大学校教授）

### 2. 支部役員会の開催

#### 1) 2009年度第3回役員会

日時：2010年1月30日（土）15:20～17:00

場所：北海道大学

報告：支部長報告、幹事報告、各種委員会報告  
議題：人事案変更について、支部大会について、支部研究会について、その他

#### 2) 2010年度第1回役員会

日時：2010年5月16日（日）15:30～17:10

場所：藤女子大学

報告：支部長報告、幹事報告、各種委員会報告  
議題：支部大会について、2011年度の事業計画・予算案、支部ホームページ委員の交代について、その他

### 3. 紀要の発行

Research Bulletin of English Teaching 第7号

2010年3月15日発行

### 4. 今後の予定

大学英語教育学会（JACET）北海道支部2010年度（第24回）大会

日時：2010年7月10日（土）12:30～17:30

場所：北海道大学

総会、研究発表、講演：「英語教員の研修と評価の新しい枠組を求めて：教育委員会への調査結果に基づいて」（神保尚武・早稲田大）、シンポジウム「大学英語教員が行う社会貢献とその実際」

（尾田智彦・札幌大学）

## 事務局からのお願い

事務局では会員の皆様の学会活動をサポートするため、各種事務を行っております。円滑な運営のために、以下の点にご協力をお願いいたします。

### 1. 「年会費」の支払い

毎年6月末日までに「年会費」支払いのお願いをしておりますが、今年度も同様に早い時期でのお支払いをお願いいたします。4月に皆様に配信されました「払込取扱票」をご使用下さい。尚、同用紙を紛失なされた方はJACET事務局にご連絡下さい。

当該年度の会費未納者の方へは会費が納入されるまで事務局からの発送物を停止させていただいておりますが、昨年度同様、今年度も9月第3週に「督促状」の発送、その後2週間以内に納入されていない場合は発送の停止を行うこととなります。また、今年度中にお支払いがない場合は会員資格を失いますのでご注意ください。

### 2. 会員登録情報（連絡先・所属・Eメールアドレスなど）の変更届

会員登録情報の変更は、以下の方法で、必ず本部事務局までご連絡下さい。①宛先：JACET事務局会員管理係までEメール（[jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)）、FAX（03-3268-9695）または郵便。②件名に「会員登録情報変更」と明記してください。③氏名（出来れば会員ID）を必ず明記の上、変更する項目名と変更内容をお書き下さい。

### 3. 『2010年度大学英語教育学会（JACET）名簿』 記載情報

2010年度も『2010年度大学英語教育学会（JACET）名簿』を作成いたしますが、個人情報保護法の問題もあり、会員の皆様の掲載情報は原則として昨年度版と同じ、氏名・NAME・〒・連絡先住所・連絡先TEL・連絡先FAX・Eメール・所属・所属TEL・専門分野（①英語教育学、②英語言語学、③応用言語学、④英米文学、⑤その他）にさせていただきます。昨年度の名簿をご参照の上、今年度の名簿記載項目の変更を希望される場合には、以下の方法で8月31日（火）まで（必着で締め切り厳守）にご連絡下さい。①宛先：JACET事務局会員管理係までEメール（[jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)）、FAX（03-3268-9695）または郵便。②件名に「名簿記載項目変更」と明記してください。③氏名（出来れば会員ID）を明記の上、名簿に掲載したくない項目名のみを書き「掲載を希望しない」とお書き下さい。今年度から新たに掲載を希望する項目がある場合にはその項目名と「掲載を希望する」とお書き下さい。

#### 4. 会員ID

会員IDは7桁の数字で、郵送時の封筒の、氏名の下に記してあります。また、上記の『2010年度大学英語教育学会（JACET）名簿』に記載いたします。

#### 5. JACET 刊行物の販売

JACETで刊行された出版物は全て、書籍代前払い、送料（手数料込み）1冊150円にてお分けしております。以下の方法でお求め下さい。①JACET事務局へEメール（[jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)）またはFAX（03-3268-9695）で申込を行います。（注意：氏名・Eメールアドレス・JACETからの連絡方法・書籍名・冊数を明記して下さい。）②在庫を確認してJACET事務局からご連絡を申し上げます。③連絡を受けてから郵便振替で振り込んで下さい。（書名・希望冊数を「通信欄」に、送付先住所氏名を「払込人住所氏名欄」に必ずご記入下さい。）口座番号：00110-7-61932、加入者名：社団法人大学英語教育学会。

（事務局長 荒川明子）

#### 訃報

本学会会員（元評議員）長谷川潔先生（元横浜国立大学・関東支部）が2009年2月23日逝去されました。享年81歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

#### 訃報

本学会会員 三好重仁先生（東京電機大学・社員・関東支部研究企画委員）が2010年6月4日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

#### 編集後記

本号から、英語教育に何らかの形で関係する他学会から寄稿をいただくという学際的な新企画がスタートしました。第1回目は、日本フランス語教育学会の大木充先生にご執筆いただきました。心より感謝申し上げます。また、宮城大学の鶴岡公幸先生、ティモシー・フェラン先生、山形大学の富田かおる先生、弘前大学の小嶋英夫先生にも、お忙しい中記事をご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

#### 編集委員

理事 尾関直子・明治大学  
委員長 大須賀直子・明治大学  
副委員長 田口悦男・大東文化大学  
木村みどり・東京女子医科大学  
遠藤雪枝・清泉女子大学  
Robert Hamilton・明治大学  
Maggie Lieb・明治大学

2010年7月1日発行

発行者 社団法人 大学英語教育学会（JACET）  
代表者 神保 尚武  
発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55  
電話 (03) 3268-9686  
FAX (03) 3268-9695  
<http://www.jacet.org/>  
印刷所 〒252-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12  
有限会社 タナカ企画  
電話 (046) 251-5775